

入居見込み確認書

板橋区長

令和 年 月 日

(宅地建物取引業者による記名)

住所 _____

氏名 (法人にあつては名称及び代表者の氏名)

宅地建物取引業の免許番号

() 第 _____ 号

連絡担当者 _____

電話番号 _____

私/当社が売買取引を仲介した下記の家屋については、現在のところ当該取引の買主が住民票の転入手続を済ませていない状態にありますが、当該取引時点において、当該取引の買主より、当該取引後に当該家屋を自己の居住の用に供する意向を有することについて下記のとおり確認しておりますので、その内容をここに証します。

記

家屋の表示	所在地	
	家屋番号	
家屋の住居表示		
入居予定年月日		
現在の家屋 (旧居) の 処分方法等	①持家を売却 ②持家を賃貸 ③賃貸借契約を解除 ④社宅・寮を退去 ⑤親族等の家屋を退去 ⑥その他 ()	
入居が登記の後になる理由	① 抵当権設定を急ぐため ②権利保全のため ③引越しの都合のため ④リフォーム工事を行うため ⑤その他 ()	

なお、住宅用家屋証明書交付後、この入居見込み確認書に虚偽があることが判明した場合には証明を取り消され、税額の追徴を受けても異議ありません。

(買主による署名)

氏名 _____

備考

1. 本様式は、宅地建物取引業者が、買主である個人の依頼を受けて家屋の取得に係る取引の代理又は媒介をした場合において、当該宅地建物取引業者が記入すること。ただし、「買主による署名」欄のみ、宅地建物取引業者の求めに応じて当該買主が署名すること。
2. 「家屋の表示」の「所在地」及び「家屋番号」の欄には、当該家屋の登記簿上の所在及び家屋番号を記入すること。
3. 「家屋の住居表示」の欄には、当該家屋の住居表示を記入すること。
4. 「入居予定年月日」の欄には、当該家屋への当該買主の入居予定年月日を記入すること。
5. 「現在の家屋の処分方法」の欄は、①から⑥までのうち該当するものを○印で囲むこと。
6. 「入居が登記の後になる理由」の欄は、①から⑤までのうち該当するものを○印で囲むこと。